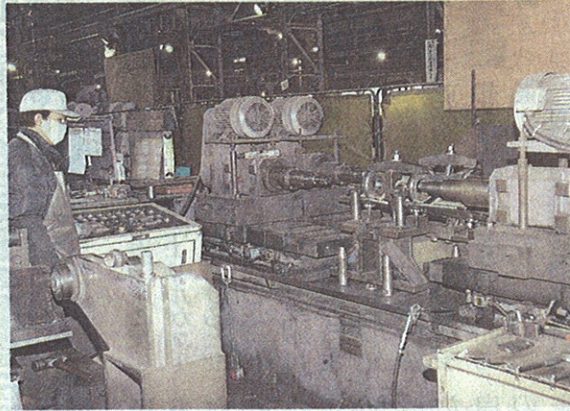


中型バケット生産増強

丸栄製作所 8月に新型MC

建設機械先端機器メーカーの丸栄製作所（射水市鷲塚・小杉、今牧繁社長）は、主力の中型バケットの生産を増強する。八月に新たにマシニングセンター（MC）を導入し、生産能力を現況の約一・五倍に引き上げる。建設需要が世界的に高まっている中、受注拡大を図る。中型バケットは、土砂などを採掘する建機のシヨベル部分。新興国のブラジルやインド、中国、ロシアなどで需要が拡大している。これに伴い、輸出が好調な大手建機メーカーからの受注が伸びており、今後、数年間は好調に推移する見通し。同社は数年前から、受注増加に生産が追いつかずに、納期が遅れるケースが多様な機種への対応も可能が多かった。昨年、最新鋭の溶接ロボット六台を導入し生産能力を高めてきたが、機械加工分野の整備が進んでいなかった。MCはバケットとアイムの取り付け部分の穴開け作業で使用する。これまで二工程としていた荒削りと仕上げを一工程に短縮し省人化を図る。多



現在、稼働している穴開け加工機。8月にマシニングセンターに切り替える

となり、新規取引先の開拓を目指す。投資額は約一億四千五百万円。現在、中型バケットは月産六百個体制だが、約八百個まで引き上げたい考え。